# 作業学習（中学部）

**【基本的考え方】**

作業学習は，作業活動を学習活動の中心にしながら，児童生徒の働く意欲を培い，将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものである。

とりわけ，作業学習の成果を直接，児童生徒の将来の進路等に直結させることよりも，児童生徒の働く意欲を培いながら，将来の職業生活や社会自立に向けて基盤となる資質・能力を育むことができるようにしていくことが重要である。

作業学習の指導は，中学部では職業・家庭科の目標及び内容が中心となるほか，高等部では職業科，家庭科及び情報科の目標及び内容や，主として専門学科において開設される各教科の目標及び内容を中心とした学習へとつながるものである。なお，小学部段階では，生活科の目標及び内容を中心として作業学習を行うことも考えられるが，児童の生活年齢や発達の段階等を踏まえれば，学習に意欲的に取り組むことや，集団への参加が円滑にできるようにしていくことが重要となることから，生活単元学習の中で，道具の準備や後片付け，必要な道具の使い方など，作業学習につながる基礎的な内容を含みながら単元を構成することが効果的である。

作業学習で取り扱われる作業活動の種類は，農耕，園芸，紙工，木工，縫製，織物，金工，窯業，セメント加工，印刷，調理，食品加工，クリーニングなどのほか，事務，販売，清掃，接客なども含み，多種多様である。作業活動の種類は，生徒が自立と社会参加を果たしていく社会の動向なども踏まえ，地域や産業界との連携を図りながら，学校として検討していくことが大切である。

※特別支援学校学習指導要領解説各教科等編(小学部・中学部)より

**【中学部の指導について】**

・中学部は、小学部段階で積み上げてきた基礎的な能力を、働くことに関する学習の中で、変化に対応する力として般化できるようにしていく時期である。将来の職業生活や社会自立に必要な事項を身に付け、各作業班における目標達成や課題解決を通して、やりがいや充実感を体感しながら仲間と共に主体的に作業に取り組めるように段階的な指導をしていく。特にも、中学部から始まる作業学習では、「仲間と働くことが楽しい」というやりがいにつながる気持ちを大切にし、作業意欲の向上や達成感・充実感の体感につなげるため、日々の作業学習の評価に、※「ポイントカード制度」を取り入れている。

・「中学部作業学習の１０のポイント」を活用しながら、授業づくりを行っている。

※ポイントカード制度・・・毎回、作業日誌評価項目（４つ）の〇の個数に応じたシールをポイントカードに貼り、１枚のカードに貼り終えたら、好きなもの一つと交換できる。年数回、「ポイントカード交換会」を実施し、お菓子・飲み物・文具類の中から選ぶことができる。

**【作業班について】**

生産班（畑・園芸)、木工班、陶芸班、リサイクル班の４つの班に分かれて作業活動を行っている。

**【単元について（分け方等）】**

・基本的に、年２回の校内製品販売会を中心とした単元とし、年間の作業学習を５つの単元に分けて実施する。

単元Ⅰ「新しい作業内容に慣れよう」

単元Ⅱ「第１回製品販売会に向けて」

単元Ⅲ「第２回製品販売会に向けて」

単元Ⅳ「音さんへの納品に向けて」　（リサイクル班：雪あかりへの納品に向けて）

単元Ⅴ「今年度の作業のまとめをしよう」

**【目標】**

**１　知識・技能**

働くことへの関心をもち、各作業班の特徴を生かした基礎的な知識・技能を身に付けることができるようにする。

**２　思考力・判断力・表現力等**

単元の目標や自分の活動を理解して取り組み、目標達成や課題解決に生かすことができるようにする。

**３　学びに向かう力、人間性等**

販売活動等を通して、製品が売れる喜びを味わい、仲間と協力して主体的に活動に取り組むことができるようにする。

**〈資料〉**

## 【中学部「作業学習」の授業づくり 10 のポイント】

| | |
|---|---|
| ① | 作業班全体の目標設定が明確にされているか。また、生徒の実態に合った個人目標が設定されているか。 |
| ② | 作業の内容や流れが分かりやすく提示されているか（スケジュールや工程表を視覚的に示すなど）。 |
| ③ | 作業内容が生徒の実態に合っているか（係や役割など）。 |
| ④ | 扱いやすい道具の活用や補助具の工夫がされているか。 |
| ⑤ | 作業に集中できる環境が整えられているか（場所、人、物など）。 |
| ⑥ | 作業形態の工夫がされているか（個別、ペア、グループなど）。 |
| ⑦ | 簡潔な指示や声掛けが行われているか。 |
| ⑧ | 生徒にとって十分な作業量が確保されているか。 |
| ⑨ | 生徒のことばを待ったり表出を引き出したりしているか。 |
| ⑩ | 自己評価や他者評価（目標に対する確認や振り返り）を行う活動が設けられているか。 |

令和２・３年度研究より

# 作業学習（高等部）

**【基本的考え方】**

作業学習は，作業活動を学習活動の中心にしながら，児童生徒の働く意欲を培い，将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するものである。

とりわけ，作業学習の成果を直接，児童生徒の将来の進路等に直結させることよりも，児童生徒の働く意欲を培いながら，将来の職業生活や社会自立に向けて基盤となる資質・能力を育むことができるようにしていくことが重要である。

作業学習の指導は，中学部では職業・家庭科の目標及び内容が中心となるほか，高等部では職業科，家庭科及び情報科の目標及び内容や，主として専門学科において開設される各教科の目標及び内容を中心とした学習へとつながるものである。なお，小学部段階では，生活科の目標及び内容を中心として作業学習を行うことも考えられるが，児童の生活年齢や発達の段階等を踏まえれば，学習に意欲的に取り組むことや，集団への参加が円滑にできるようにしていくことが重要となることから，生活単元学習の中で，道具の準備や後片付け，必要な道具の使い方など，作業学習につながる基礎的な内容を含みながら単元を構成することが効果的である。

作業学習で取り扱われる作業活動の種類は，農耕，園芸，紙工，木工，縫製，織物，金工，窯業，セメント加工，印刷，調理，食品加工，クリーニングなどのほか，事務，販売，清掃，接客なども含み，多種多様である。作業活動の種類は，生徒が自立と社会参加を果たしていく社会の動向なども踏まえ，地域や産業界との連携を図りながら，学校として検討していくことが大切である。

※特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）より

**【高等部の指導について】**

・高等部は、中学部段階で培ってきた力を土台に、実際に社会に出て働くことを前提とした継続的な職業体験等を通して、職業に関連する知識・技能を得るとともに、職業選択及び移行準備の時期である。自らの適正ややりがいなどに基づいた意思決定を行い、働くことに関する知識・技能の獲得と必要な態度の形成に取り組んでいく。また、必要な支援を適切に求め、指示・助言を理解し、実行する力を養い高め、職業生活に必要な習慣を身に付け、さらに経済生活に必要な知識と余暇等を活用する力を伸ばしていきたい。

・「みたけスタンダードＲ２版」を活用しながら、授業づくりを行っている。

**※作業日誌：**作業活動の自己分析を行い、担当の先生から評価をもらう。作業初めと終わりに記入する。自己評価や他者評価で課題や自己の成長に気付き、解決策を考えて作業時に活かしたり、自信をもち意欲的に作業に取り組めるようにしたりする。

**※お疲れ様会：**売上金（作業費）でお菓子などを購入し、みんなで食べながら１年間の作業を振り返る。作業学習の一貫として作る→売る→収入を得る⇔物に変換するという“流通”や“生活”を学ぶことをねらいとしている。

**※校外販売：**生徒が店頭に立って販売する。実際に接客をして商品販売のやり取りをすることで、商品が売れる喜びや達成感を味わいつつ、接客の難しさなどを知り、自己の将来の職業生活に必要なことを考え、働くことへの意欲を高めることができるようにする。

お客さんの反応や売れ筋を直で感じ、作業学習として製品への改良を考えたり、自己の製品づくりへの責任感を改めて感じたりする機会にもなっている。

＜学部としての共通理解ではないが…。＞

**※他教科との関連性：**現場（職場見学や実習）で学んだことを振り返り作業学習で活かす。また作業学習で学んだことを現場で実践し振り返る。その場だけの反省や実践にせず、繰り返し実践し振り返ることで知識や技能を確実に獲得する他、働くうえで必要な態度を形成する。

製品販売活動、製品を作成する段階での計量や活動の順番など数学との関連や、日常の言葉や作業動作の言葉、文字の記入など国語との関連などがある。今の高等部では「生徒が学習⇔作業を関連付けて取り組めるように作業担当と学級担任がそれぞれ指導している」状況である。作業班と学級の連携は弱く、支援の手立てが今後の課題である。

**【作業班について】**

農耕園芸班、紙工班、陶芸班、木工班の４つに分かれて作業活動を行っている。

※Ｒ５年度は、３班体制（農耕園芸班、紙工班、陶芸班）で作業活動を行う予定。

**【単元について（分け方等）】**

各作業班ともに校内販売会と観武祭に向けて製品づくりを行っている。

高等部作業学習の基本的な単元は、

単元Ⅰ　オリエンテーション

単元Ⅱ　観武祭で販売しよう

単元Ⅲ　販売会で販売しよう

単元Ⅳ　まとめと次年度の準備をしよう　である。

**【目標】**

**１　知識・技能**

職業に関する理解を深め、それぞれの作業種の特徴を生かした知識・技能を身に付けることができるようにする。

**２　思考力・判断力・表現力等**

職業生活に必要な課題に気付き、実践的な課題解決策を考え、工夫しながら実践し振り返ることができるようにする。

**３　学びに向かう力、人間性等**

自己及び他者理解を深め、仲間と協働しながら主体的に取り組むことができるようにする。

〈資料〉

## 【高等部「みたけスタンダードＲ２版」

| | | |
|---|---|---|
| 【育成すべき態度】<br>目標を<br>意識・理解できるように | ① | 本人にとって分かりやすく、具体的な目標設定がなされているか |
| | ② | 作業全体としての目的や計画、目標が明確か |
| | ③ | 作業工程を明確に示しているか |
| 【育成すべき態度】<br>進んで作業に取り組める<br>ように | ④ | 実態やできることを活かした適材適所の役割分担がなされているか |
| | ⑤ | 生徒が自分または自分たちの力で作業ができる状況を整えているか |
| | ⑥ | どの生徒も様々な工程を担えるような工夫がなされているか |
| | ⑦ | 教師の指示は最小限に、ポイントを明確にして行っているか |
| | ⑧ | 生徒同士が協力して作業したり、話し合ったり、認め合ったりする体制や支援がなされているか |
| | ⑨ | 教師も生徒とともに働いているか |
| 【育成すべき態度】<br>やりがい、<br>達成感、<br>喜びをもとめるように | ⑩ | 単元や毎日の目標達成に向けた状況を生徒自身が判断できる支援を個々に整えているか |
| | ⑪ | 十分な作業量が用意されているか |
| | ⑫ | 技術の向上や量、仕上がりの精度、態度等を教師が適切に評価しているか |
| | ⑬ | 地域とのつながりを意識した取り組みがなされているか |

令和２、３年度研究より